「礼拝における賛美の焦点」(2019.9.15)

けれども、あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。

（詩編 22:3 新改訳第 3 版）

賛美は礼拝において極めて重要な要素である。礼拝の喜びの一つがここにある。だから、礼拝の刷新では賛美の刷新が重要である。そこで私たちは賛美の向かうお方を意識するという意味で、スクリーンを導入した。メロディーが分かる曲については顔を上げ、スクリーンに目を向けている。そのため、より声も出ているように思う。

先月、私たちはゴスペル賛美夕礼拝を捧げた。軽快なテンポに合わせて、手を叩いたり、体を揺すって歌っていると、自然と笑顔になった。ああ、この賛美の只中に主がいて下さる！上掲の御言葉が開かれたのである。その後、歌う曲がゴスペルでなくても、このみ言葉を心に響かせながら賛美するとき、これまでと違った風景が礼拝堂に広がっていくのに気づかされた。このみ言葉には礼拝の刷新の突破口が秘められているように思う。

ゴスペル賛美夕礼拝ではさらに多くの恵みが与えられた。会堂が満席になったことはもちろんであるが、多くの教会員が各奉仕を担ってくれたことである。そして声をかけ誘って下さったことである。ある方はお世話になっているヘルパーさんにチラシを見せて誘って下さった。また、ある方は妹さんや娘さんを、ある方はサークルの方を誘って下さった。出席名簿には私がまだ把握していない方々の名前がたくさんある。福音宣教の使命を担う教会として真に嬉しい事である。

今年度は 12 月のイブ礼拝と 2 月の教会ミニかまくらが控えている。イブ礼拝にはシャンソン歌手・和賀葉子氏にオファーを出し、快諾を戴いている。教会ミニかまくらについては検討中である。こうした教会の営みについて互いに振り返り、改めて礼拝、伝道、信仰などについて共通理解を得たいと願い、10 月 13 日の礼拝後、第 1 回教会懇談会を開く。また、10 月 20 日には野口誠先生をお招きして、「聖書の神は全能である」との説教を伺い、いよいよ「祈りの家と呼ばれる教会に！」という年度目標を確かにしたい。